

やすらぎ通信

第18号 (平成24年5月1日) 発行: 大阪府立急性期・総合医療センター

皐月 (菖蒲月)

春の小川

文部省唱歌 (オリジナル) ※

- 一 春の小川は さらさら流る
岸のすみれや れんげの花に
にほいめでたく 色うつくしく
咲けよ咲けよと ささやく如く
- 二 春の小川は さらさら流る
蝦やめだかや 小鮒の群れに
今日も一日 ひなたに出でて
遊べ遊べと ささやく如く
- 三 春の小川は さらさら流る
歌の上手よ いとしき子ども
聲をそろへて 小川の歌を
うたへうたへと ささやく如く

※「高野辰之作詞 岡野貞一作曲」の説もある。

華やかな桜のシーズンもあつと言う間に過ぎ、万代池もこれから夏の準備に入る時期を迎えました。木々の若葉は日々緑を増し、池のかきつばたも一段と成長する5月の到来です。昨年晩秋から湖面で英気を養っていた多くのカモ達も先月20日過ぎには北に向かって旅立ったようです。また、純白のダイサギや美しいツートンカラーの気品に満ちたアオサギたちも、いつの間にかいなくなりました。万代池の主役の交替です。本当に、池の自然は季節ごとに様々な顔を見せてくれて私たちを楽しませ、心を和らげてくれます。

◇ さて、やすらぎ通信は、あまり堅苦しいものではなく、リラックスをしながら『食後のデザート感覚』で読んでいただけるものをお届けするということをモットーに編集・作成しております。このため、今月から少し模様替えをしてみました。いつも様々な世の中の話題を取り上げて小欄を作成しておりますが、今月号からそうした話題は「喫茶室」のコーナーで、また、毎回それに続いて掲載しておりました病院の動きに関する情報やお願いは「お便り」のコーナーでというように整理をしてお届けします。今後ともご愛読賜りますようお願いいたします。(F) ◇



5月の花と言えばやはりつつじ。公園に一面に咲く赤、ピンク、白のつつじは本当に見るものを楽しませてくれますし、盆栽のつつじやさつきを楽しまれている方も昔から多くおられます。また、最近ではアザレアという鉢で栽培された西洋つつじがホームセンターなどで2月頃から売られていますから、初春に春の到来を告げる花として手軽に購入できます。

ところで、このつつじ、植物学的にはつつじ科つつじ属に属し、つつじやさつき、シャクナゲが全てこのつつじ属に含まれる兄弟です。日本ではいつごろから園芸品種として栽培されていたかは定かではありませんが、樹齢800年から1000年を超える古木があるといえますから、それ以上前からということになるのでしょうか。俳句や和歌の世界でも松尾芭蕉はもとより柿本人麻呂が「つつじ花ほえ娘子（をとめご）桜花栄え娘子」と詠んでいる歌があるそうです。また、江戸時代には地歌（箏曲）の世界でも佐山検校が歌詞中につつじを22品種詠みこまれた歌を作っているようです。

検校の歌にありますように、品種改良は随分と古くから行われ、彩り・大きさ、形の異なる様々なつつじが開発されています。植物学的な整理をした並べ方ではありませんが、思いつくままに並べてみましても、ヒラド、ミヤマキリシマ、クルメ、ミツバ、レン、オオムラサキ、コメ、モチ、ウンゼン、ヤマ、エゾ、サつきなど本当に多

品種です。当センターにも植わっておりますドウダンツツジはツツジ科ドウダンツツジ属に属する植物でツツジではないということですが、ツツジという名を冠していることは、やはり如何に日本人が昔からツツジが好きであったかの現れではないでしょうか。

また、ツツジの仲間であるサツキという名は植物だけではなく、魚の世界にも見ることができます。

長良川にはサツキマスという素敵な名前のついた魚が生息しています。この魚がサツキマスと名づけられたのは、さつきの花が開く5月頃に、多くの遡上が目撃されることから名づけられたと言われていています。サツキマスは、サケ目サケ科の魚類で、ピンクがかかったとても美しい魚です。毎年郡上踊りで有名な長良川の上流付近で秋に産卵し、翌年初めにふ化した稚魚はそのあと河川を下り海に出ます。

サツキマスは回遊性の魚ですが、その回遊範囲は河口からあまり遠くない海域に留まる小回遊性の魚です。

そして、その回遊期間は1年とされ、1年間に海の豊富な小生物などを食べ成熟し、そのあと河川と海の水温が等しくなる5月頃から産卵のため、再び長良川に戻ってきて上流の産卵場所をめざし遡上します。その頃が丁度サツキの花が満開を迎えるためこの名が付けられました。

ところで、この同じサツキマスの仲間には、海に出ないで一生長良川に閉じこもり暮らす仲間がおります。海に下る「降海型」に対し、一生長良川で暮らす群れは「陸封型」と言い、それらはサツキマスではなく皆さんよくご存知のアマゴになるそうです。さらに不思議なのは、河川でこのサツキマスとアマゴへの同じ群れからの分化が行われるのは長良川及びその周辺の河川だけに限った現象とのこと。自然界は人知を超えたものがあります。

また、同じ現象は、富山県神通寺川やその周辺河川でも見られるようで、そのマスはサクラマスと呼ばれ、やはり桜の花が咲く頃に川を遡上して来るためこのような名を付けられたそうです。そして、サクラマスの陸封型はヤマメになるそうです。

この美しい名がついたサツキマス、サクラマスから共通して見えるものは、花や生物、河川や山などの自然の恵みや、自然そのものを大切に暮らしてきた日本人の姿です。客体を把握する上でのきめ細やかな感受性を持つ日本人ならではの資質、そして自然とともに暮らすという日本人独特の自然観、宗教観、人生観が太古の昔から人々の生活に根付いていたということを感じさせてくれます。

ところで、残念なことに、長良川のサツキマスも神通寺川のサクラマスもともにその資源量は大きく減ってしまったようです。長良川は、随分と長く自然保護か河口堰の必要性かで争われ、最終的に堰が作られ運用されたという経緯があります。それ以

来 17 年近く経ち、それが直接の原因かどうかは分かりませんが、結果的にはサツキマスの姿は少なくなっていました。

長良川河口堰問題は、当時、多くの人々の大きな関心事となりました。

その中で、強く印象に残っているのは、本やテレビで取り上げられた、川漁師さんのことでした。

当時、長良川は四国の四万十川と並び、日本で 2 か所残された自然清流と言われていました。流域の人々は、古くから長良川の水を野菜の洗浄や和紙生産や酒づくりなどにも利用するなど、日々の生活のみならず産業活動にも利用してきました。しかし、それでも、長良川の水質は維持され人工物で川の姿を変えられることもなく、豊かな水をたたえてサツキマスなど多くの自然の恵みを生み出していました。それは流域の人々の川に対する愛情や熱い思いから、川の環境が大切に守られてきたからです。

そのなかで、半世紀にわたり、この清流とともに生き、サツキマスを捕りながら生活を営んでこられた、兄弟の川漁師さんがおられることが紹介されていましたが、お二人の自然と一体になったその生き様に、人間の自然との共生の意義や原点を教えてくださいました。

サツキマスに限らず自然界の生物や自然そのものは、その時々人間と自然との関係を正直に映し出す鏡と言えます。人間が歪めば、その鏡である生物や自然は喘ぎ苦しみ、それを通して人間の醜い顔が現れます。逆に人間がきちんと自然と向き合えば、自然に写る人間の姿は、歪みのない本来の人間らしい姿を映し出します。

日本人の宗教観は、西欧人やイスラム諸国の人々のような一神教ではなく、多神教的宗教観で、山や川、太陽などの様々な自然や自然が育んだ生物などに多くの神性を見出して崇拝してきました。原始的な自然崇拝思想に基づく多神教的宗教観がもととなり、その上に、6 世紀頃に朝鮮半島を経由して入ってきた仏教や儒教などが加味されて日本人の精神文化は形成されてきましたが、その基本的なフレームは今日でも何ら変わっていないと思います。

近年の科学技術の発展や特にパーソナルコンピューター文明の発展は、人々の日常生活や企業活動に根本的な変革をもたらしました。デジタル化革命です。白か黒か、あるいは「0」か「1」かという 2 進法でものごとを割り切る思考は、まさに一神教的な思考であって、これを積極的に受け入れている日本人の精神文化は変わってしまったかのごとくにみえますが、そうではなく、こうした一神教の文化もうまく受け入れて消化するのも、やはりオリジナルの多神教的価値観を備えているからこそだと思います。

今、日本は「3. 11」を受けて、これからの進路をどのようにとるか、大きな歴史的転換点に立たされています。これからの社会のあるべき姿を構想するには、社会全体

を貫く哲学の再構築が必要だと思えます。そのためにも、日本人が本来持っていた自然との関わり方の原点である自然と共生して謙虚に向き合う自然観を、今一度再確認して、それをベースにして科学技術の発展と調和を図っていくことが、大切ではないかと思えますが、皆さまいかがでしょうか。

今月の歌「春の小川」。この歌には団塊の世代以上の方には、何とも言えない郷愁と幸せ感を与えてくれるのではないかと取り上げました。文字通り、自然の中に身を横たえ、自然とともに暮らしていた日本人の原点とも言える歌です。少し団塊の世代には馴染みのないオリジナルの歌詞を取り上げました。



当センターが府立病院時代からの慢性赤字経営から脱却し、黒字に転換して4年目の会計年度を3月で終えました。この間の病院全職員挙げての取り組みにより経営体質が筋肉質となり、今では府立5病院全体を支えるトップの経営状況となり昨年には週刊ダイヤモンド誌が毎年公表している「頼りになる病院」ランキングでも大阪府内では第8位（大学病院を除けば第5位）に格付けされました。病院の医療の質を担保するには、優秀な医療スタッフの安定的な確保と医療機器類・アメニティへの継続的な投資が不可欠ですが、これも経営が安定して初めてできることです。

こういう点で、当センターの経営体質が安定した軌道に乗り、またほぼ税金の投入がなくても経営ができるまで自立（医業収支比率が98%を超えています）できた状態になったことが、組織を活性化させ提供する医療の質を高める結果をもたらし、今年度も80名を超える医師、看護師、コメディカルスタッフの大幅な増員という結果に導いてくれました。また、従来赤字経営では、高額医療機器の導入に四苦八苦しておりましたが、22年度の超高性能のリニアック、昨年度のPET-CT、IVR-CTの整備に続き、今年度は、府内病院でもまだまだ導入実績の少ない最先端医療機器である手術支援ロボット・ダビंचの導入を決断しました。

ダビंचを使用することにより将来的には様々ながんの低侵襲治療が可能となります。当面、今年度から保険適用になった前立腺がんの治療で使用を始めます。

このように、当センターは今後とも、良質な医療サービスを最大限のアメニティーのもとで提供させていただき病院へと今後とも進化を遂げて参りますので、皆さま方の暖かいご支援をこれからもよろしくお願い申し上げます。

NEWS

【(新) 高度医療センター—「低侵襲心血管治療センター」開設のご案内—

心臓血管外科】

新緑の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。

さて、4月に高度医療センター「低侵襲心血管治療センター」を開設いたしました。

近年、ますます高齢化社会となり、高齢および重篤な合併症をお持ちの心血管系の患者さんが増加しております。このような患者さんに、通常の手術術式では、やはり成績が不良であるのが現状であります。

大阪府立病院時代、1993年より大動脈瘤に対するステントグラフト手術を当院で導入し、日本さらには世界の先駆的基幹病院として治療を行って参りました。その治療チームの低侵襲治療への意気込みは、大阪大学心臓血管外科にて移行され、大きく成長し、世界でも有数の症例数と成績を得られるようになり、あらゆる大動脈疾患に対応できると自負しております。さらに近年、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術を日本で最初に開始し、50例を超える患者さんを治療しております。

今回、我々のチームにより、再度、伝統のあるこの病院で、「低侵襲心血管治療センター」を開設できましたことに、極めて感銘を受けております。医師は、大阪大学心臓血管外科 低侵襲治療チームが当院で勤務し、かつ重症症例にはチーム一丸となってあらゆる症例に対応できると思っております。また以前より低侵襲治療に携わってきたCo-medical、看護師さんも多く、さらに質の高い医療が出来るものと期待しております。また当院においても経カテーテル的大動脈弁置換術を、早急に導入できる見込みと考えております。

低侵襲心血管治療センター

外来 水曜日 倉谷 徹 (大阪大学 低侵襲循環器医療学講座 兼任)

木曜日 金 啓和

【(新) “総合内科” を開設のご案内—総合内科—】

春風駘蕩の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

去る4月1日より当センターに総合内科新規開設とともに、診療科責任者および指導医として大場雄一郎医師が赴任しております。総合内科は、感染症を主とした内科系の境界領域の診療、多重合併症をもつ患者さんの診療、診断未確定で担当診療科が定まっていない患者さんの診断と初期診療、といった役割を担うこととしております。

また、初期研修医・後期研修医の総合的診療能力を培うための医学教育に尽力することも課題としております。新規診療科として活動することで、当センターおよび地域の医療の機能向上に貢献させていただきたいと思っております。

大阪府立急性期・総合医療センター
医務局長兼総合内科部長 谷尾 吉郎

【(継) 関節リウマチ・バイオサポートセンターを開設しました！—免疫リウマチ科】

関節リウマチの治療に非常に効果の高い生物学的製剤が開発され、近年多く治療に使われ出したことから、地域の医療機関でも安全性を確保しながら治療を行うことが可能となるようサポートさせていただく「関節リウマチ・バイオサポートセンター」を4月1日に開設しました。設置に当たっての免疫リウマチ科部長からのメッセージをご紹介します。

<関節リウマチ・バイオサポートセンターの設立にあたって>

免疫リウマチ科主任部長 藤原 弘士

「関節リウマチでは、激しい関節の痛みや変形による動作の不自由さから、患者さんはつらい思いをされます。しかしながら今では治療も進歩し、とりわけ生物学的製剤という新しいお薬によって、関節リウマチの多くの患者さんが良くなり、一部の患者さんでは治癒される方もみられるようになってきました。

その一方で、生物学的製剤を使用すると、半年間で数パーセントの確率で、重篤な副作用が生じることも事実で、その副作用の予防や治療も非常に重要です。

そこで、私たちはこのような非常によく効く生物学的製剤を、患者さんと主治医の先生方に安全にそして安心してご使用していただけるように支援することを目指した関節リウマチ・バイオサポートセンターをこのたび開設しました。

これまで以上に、多くの患者さんが現在の関節リウマチ治療の進歩の恩恵を受けることができるように努めさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。」

【(継) 前立腺がん、頭頸部がんの IMRT 治療を行っております —放射線治療科—】

IMRT(強度変調放射線治療)は、周辺の正常組織の線量を減らし合併症のリスク低減に画期的な方法です。昨年11月から前立腺癌に対するIMRTの保険診療を開始しましたが、現在、適応拡大して頭頸部癌のIMRTも行っております。頭頸部癌では脳・脊髄・唾液腺など重要臓器が複雑に関係し、通常の放射線治療では唾液腺障害が必発です。さらに腫瘍に対しても十分な線量を投与することが難しいケースもあります。IMRTの技術を用いればこれらが解決し、腫瘍制御率向上だけでなく患者さんのQOL維持にも役立ちます。

主な対象疾患は咽頭癌です。適応など詳細については放射線治療科もしくは耳鼻咽喉・頭頸部外科までお問い合わせ下さい。

【(継) PET-CT 先月から地域の医療機関からの検査受付開始しております—画像診断科】

当センターでは、がん診療の充実をめざし、診断精度の一層の高度化を図るために、これまで外部に検査を依頼していたPET検査を内部で可能となるようPET-CTの整備を進めてきましたが、3月から検査を開始し。先月からは地域の医療機関からの撮影依頼も受け付けています。(なお、当センターのPET-CTは検診依頼には対応しており

ませんのでご注意ください。)

お問い合わせは画像診断科 RI (核医学)・PET 検査室まで。

【(継) 土曜日の「地域予約」受付を開始します—地域医療連携室】

地域医療連携室では、土曜日も「地域予約」のご依頼に対応させていただいております。「地域予約」をお取りいただくことで診察の待ち時間を短縮し、患者さんによりスムーズに受診いただくことができます。是非ご利用ください。

〈地域予約受付時間〉 月曜日～金曜日 9:00～19:30
土曜日 9:00～12:30
(年末年始、祝祭日を除く)

〈電話番号〉 06-6606-7014

〈F A X〉 06-6693-4143

【(継) 「医療相談」コールセンターのご利用を一地域医療連携室】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号は 06-6692-2800 (専用電話回線)

新たに開設! 06-6692-2801 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日

午前9時～午後5時

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【(継) 診察予約変更センター

11の診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています!

当センターでは、昨年6月から11診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。

これは、当センターが進めています「患者さんにとって利便性の高い病院づくり」の一環として導入整備したもので、急な用事や体調変化で予約された日時に診察のために来院できなくなった場合に、電話で日時の変更ができるサービスをご提供するものです。

予約変更を電話でできるのは、以下の診療科です。是非、積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意くださいようお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201(代表)にダイヤルして
「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科
免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【(継) 入院治療費の概算を予めお知らせしています】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター(やすらぎセンター)におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

今月の催し

【第19回看護の日のイベント】

今年のテーマ — 笑顔が一番! 繋がる笑顔・輝く明日 —

日 時 5月8日(火)

第1部(午前10時～11時半、本館外来にて)

☆知って得する病院快適利用マップ ～病院紹介・おすすめショップなど～

☆Let's 身体測定 ～身長・体重・骨密度など～

☆季節を感じる病院食ポスター展示

☆つかの間のリラックス アロマ・ハンドマッサージ

第2部(午後2時～3時半、本館3階講堂にて)

☆てっちゃんのマジックショー

☆季節の折り紙 ～お魚箸袋をつくろう～

☆パープルシンガーズコーラス

(主催)当センター看護の日 イベント実行委員会

【(新)第2回肝臓病教室】

日 時 5月19日(土) 午前10時～12時

場 所 本館3階 保健教室

講 師 1 消化器内科 副部長 春名能道

「C型肝炎と脂肪肝の病態と治療」

2 栄養管理室 管理栄養士 織田 都

「C型肝炎と脂肪肝の食事について」

(参加無料)

【(新)第18回相愛大学連携コンサート】

“若いブラスの響きは 5月の緑の風” —金管アンサンブル・五重奏—

日 時 5月29日(火) 午後2時～
場 所 3階講堂
出 演 トランペット 立石史樹(3回生) 上野紗奈(2回生)
ホルン 作田進吾(4回生)
トロンボーン 山田貴之(4回生)
チューバ 濱崎誉人(H24.3卒業、現在相愛オーケストラ補助員)
演奏曲目 シースケッチ I. マグドナルド
サウンド・オブ・ミュージックより R. ロジャース

【(新)大好評!!】

相愛大学連携・外来糖尿病教室～知って得する!糖尿病の付き合いかた～】

日 時 5月22日(火) 午後2時～3時30分
場 所 1階アトリウム
内 容 (1) 糖尿病とは ～ 血糖の流れを学習しよう ～
糖尿病代謝内科診療主任 藤木 典隆
(2) インクレティン関連薬について
当センター薬局薬剤師 岡田 幸恵
(3) 中食、外食は食材を考えよう
相愛大学発達栄養学科准教授 角谷 勲

【(新)今月のすこやかセミナー】

精神障がいと認知症の方が利用できる制度や施設について

日 時 5月25日(金) 午前11時～12時
場 所 3階保健教室
講 師 精神科・精神保健福祉士 谷口 尚子
森 知恵美

(参加無料)

【(継)現代美術空間・病院ギャラリー 第5回企画展 開催】

「やすらぎの木版作家—浅野竹二ニューモアとペーソスの自由版画展—」

日 時 平成23年12月26日(月)～平成24年6月22日(金)
場 所 本館2階ギャラリー(入場無料)

浅野竹二は、1900年京都生まれ。京都市立絵画専門学校で日本画を学んだ後、油絵を始めますが、再び日本画を描き始め、日本画家として活躍します。1930年頃からは、木版画の制作を始め、写実的な「名所絵版画」を制作する一方で、自由に自分の感性を表現した『創作版画』を制作し、大胆なフォルムと色彩で構成されたユーモア溢れる作品を発表しました。

今回は「ユーモアとペーソスの自由版画展」と題して、これまで展示してきた情景版画とは全く異なる軟らかく暖かい情緒豊かな自由版画をお楽しみいただきます。

【(予告) 前田藤四郎「昭和モダニズム」・元永定正「色彩の魔術」版画二人展】

前田藤四郎(1904-1990)は、兵庫県生まれで神戸高商(現神戸大学)を卒業した後松坂屋宣伝部に入社。商業美術に携わる一方独習で版画の世界に。主に関西を中心に、木版をベースに、リノリウムやシルクスクリーンをも使用し、油彩絵具で刷り上げる独特の明快な作風を確立。昭和の大阪のモダニズムを代表する版画家となった。

元永定正(1922-2011)は、三重県生まれで、55年に関西を拠点とする前衛美術集団「具体美術協会」に参加し、吉原治郎に師事。偶然性を取り入れた抽象的なオブジェや平面作品を制作。おおらかでユーモアあふれる作風を確立する一方、70年代からは版画制作にも意欲的に取り組み、自作へのネーミングには抜群のセンスを発揮。

今回の企画展では、関西を代表した二人の巨匠の作品を同時展示します。

是非、お楽しみにお待ちください。

日 時 6月25日(月)～ 9月21日(金)

場 所 本館2階現代美術空間一病院ギャラリー

【(予告) 芦屋市美術協会会員一小林芳夫写真展～邂逅の世界から～】

当センターの前身である旧大阪府立病院で心臓疾患の専門医(1988年、心疾患専門診療科部長で退職)として勤務していた小林芳夫氏が、退職後に本格的に写真家として活動を開始。今日まで日本国内のみならず、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなど世界各地で撮影を行い、10年ごとに3冊の写真集「邂逅」「邂逅Ⅱ」「邂逅Ⅲ」を出版(1作目は自費出版)。

多くの作品を大阪大学などに寄贈されるなか、氏の手元に残された秀作14点の写真展を「前田藤四郎・元永定正版画二人展」と同時開催します。

日 時 6月25日(月)～ 12月21日(金)

場 所 本館2階現代美術空間一病院ギャラリー

【(予告) 日本センチュリー交響楽団・病院コンサート】

～ センチュリー交響楽団が今年も宝石のような音色を聞かせてくれます！～

日 時 6月7日(木) 午後(時間調整中)
場 所 1階アトリウム

【(予告) 府民公開講座—認知症の治療とケア—】

—認知症なんて怖くない、笑って吹き飛ばそう—

日 時 6月9日(土) 午後1時30分～3時
場 所 本館3階講堂
講 師 神経内科主任部長 狭間 敬憲
(先着100名 参加費無料)

【(予告) 初登場！ — 第7回万代やすらぎ亭寄席

太神楽曲芸・魅せます！豊来家玉之助 —】

天満天神繁盛亭、NHK 上方演芸ホール、ニューヨークブロードウェイNY 繁盛亭で大活躍の玉之助さんが来演！傘回し・皿回し・ひとつ毬・ばちのきょくどり・ながばち・雲水など日本の伝統の和風曲芸の粋を届けます。

日 時 7月3日(火) 午後2時～
場 所 本館3階講堂
出 演 豊来家玉之助
(入場無料)

【(予告) 第8回万代やすらぎ亭寄席 —第3回三代目桂春団治一門会落語会— 】

日 時 7月25日(水) 午後2時～
場 所 本館3階講堂
出 演 桂 春雨
桂 治門
(入場無料)

Topics

【(継) どうだんつつじ(満天星)が咲く5月！

やすらぎのプロムナード—北側通路周辺—】

いよいよ季節が5月に進んできました。やすらぎのプロムナードでは、どうだんつ

つじ（満天星）が満開を迎えています。今月下旬からは紫陽花の清楚なブルーが夏の到来を感じさせてくれます。当センターにお越しの際には新緑の美しいプロムナードには是非お立ち寄り下さい。

今月のコンシェルジュ

【(新) コンシェはどんな人？—坂上美紀コンシェルジュの巻—】

坂上「こんにちは。自転車通勤が心地よい季節となりました。当センターに勤務してあっという間に3か月。毎日覚えなければならない仕事がいっぱいあるのですが、日々、患者さんとの触れ合いの中で、患者さんから笑顔や“ありがとう”のお言葉をいただいたりしたときは本当に励みを感じ、この仕事を選んでよかったと思う瞬間です。もっとご案内できるスキルをアップし、患者さんのストレスが少しでも和らぎ、やすらぎを感じてセンターをご利用いただけるよう日々精進していきますのでよろしくお願いいたします。」

横 顔

総合内科 部長代理 大場雄一郎

2000年に大阪大学医学部卒業、大阪大学医学部附属病院にて内科系初期研修1年、大阪府立羽曳野病院(現 呼吸器・アレルギー医療センター)にて消化器内科・呼吸器内科後期研修2年、市立豊中病院にて呼吸器内科専攻医1年と臨床研修を積みました。

2004年から当センターの内科・呼吸器内科で5年間勤務させて頂きました。

かねてより感染症内科・総合内科診療を専門とすることを志向しており、2009年から神戸大学病院感染症内科にて、北米の内科・感染症科専門医資格をもつ教授兼指導医のもとで、フェローシップ(専門医研修)を開始しました。同フェローシップでは、臨床感染症学・臨床微生物学・感染症治療薬学・感染管理学・HIV/AIDS診療・輸入感染症診療・ワクチン診療・渡航外来などの臨床実地を通じてのトレーニングとともに、総合内科的診療や、医学教育・研修医指導にも従事し、研鑽を積むことができました。また、コース中の2011年1~4月には留学でGorgas program (ペルー)に参加し、熱帯医学衛生学トレーニング修了のうえ、Diploma資格を取得いたしました。

本年3月末日で同フェローシップを修了するにあたり、その専門性を活かせる進路を模索していた折に、古巣であった当センターより総合内科開設のお話を頂き、診療責任者として着任させて頂くこととなった次第です。今後は総合内科診療に、特に感染症診療を主として、邁進して参りたい所存ですので、何卒よろしくお願いいたします。

心臓血管外科診療主任 金 啓和

高齢化社会の到来により、様々な疾患の治療方法が劇的に変わっております。特に心臓血管外科の分野においてはそれが顕著であり、従来は動脈瘤が見つかり、降圧療法をとるか人工血管置換術行っていました。従来は手術法では患者さんの身体的負担が大きく、大きな手術になるために手術自体の危険率が高く、長期間の入院やリハビリが必要になり、術後早期に日常生活に復帰してもらえないことも現実的にはあります。

私たちは大動脈瘤治療にステントグラフトを導入することにより、できるだけ低侵襲にかつより quality の高い治療を患者さんに提供できるよう心がけております。

また、同時にいままでは手術ができなかったご高齢あるいは合併症を併存した症例に対しても積極的に治療できるようになると考えております。大動脈瘤あるいは大動脈解離など大動脈疾患症例がございましたらどうぞお気軽にご相談下さい。

心臓血管外科医長 山内 孝

9年に大阪大学医学部を卒業しその後、大阪警察病院、大阪大学、桜橋渡辺病院を中心に心臓血管外科領域の臨床に従事してまいりました。心臓血管外科領域は高齢化社会に伴い年々患者数が増えてきている中、様々な技術革新があり、近年でもっとも治療成績が向上している診療科と思われまます。現在私の専門は冠動脈外科、弁膜症外科、重症心不全に対する外科治療であります。冠動脈外科に関しましてはより患者さんに低侵襲と考えられます体外循環を用いない冠動脈バイパス術を中心に、又弁膜症では患者さんのQOLを考慮し、抗凝固療法を必要とする弁置換を避け可能な限り弁形成術を行う方針としております。重症心不全治療に関しては在籍しておりました大阪大学にて人工心臓装着ならびに心臓移植に従事した経験を活かし、従来は薬物、手術では全身状態の改善を認めない患者さん等の治療に関してお力になっていきたいと考えております。

その他のお知らせ

【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debit に加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。

なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます。

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。